

みなさん、こんにちは。  
今年もあと一ヶ月となりましたね。  
冬休みには、クリスマスやお正月など楽しいことがたくさんありますが、県立文化施設でも楽しいイベントがたくさんありますので、お友達を誘って遊びにいきませんか？

けんりつぶんがくかん  
県立文学館  
ひやくにんいっしゅ  
「百人一首を体験しませんか」



みなさんは、百人一首かるたをやったことがありますか？百人一首は、昔から多くの人が楽しむかるたのゲームです。百人一首の歌は、基本的に五・七・五の上の句と七・七の下の句から作られています。読み手が上の句を読んだら、下の句が書かれた札をいちはやく取るためにみんなが競います。一番多く札を取った人が勝ちです。  
百人一首には、平安時代の人や鎌倉時代の人が作った昔の歌が書かれています。なかでも、鎌倉時代の歌人・藤原定家が、京都の小倉山の山荘で書かれた歌を百首選んだとされる小倉百人一首が一般的です。その百首選ばれた歌を詠んだ歌人の中には、今から千年以上前の山梨ゆかりの平安時代の歌人もいます。  
「心あてに折らばや折らむはつ霜の置きまどはせるしらぎくの花」（あれこれさぐりあてて、折ってみるなら折ってみようか。初霜がおりて一面真っ白なか中で咲いている白菊の花を）という歌を詠んだ凡河内躬恒という歌人は、

甲斐の国の役人に任ぜられて、京都から山梨にやって来たともいわれていいます。

「有明のつれなくみえしわかれより 暁ばかり憂きものはなし」（明け方の月がそつげなく見えた時に、大好きな人と別れた。その時から 暁ほどわたしにとつてつらいものはない）という歌を詠んだ壬生忠岑という歌人も同じく甲斐の国の役人になったといわれています。百人一首をする時には、ぜひ二人の札に注目してみてください。

文学館では、年明けの一月九日（土）に百人一首のワークショップを行います。竜王かるた会の先生たちが本格的な競技かるたを見せてくれたり参加者のみなさんも百人一首の体験ができます。

ぜひ遊びに来てくださいね！



平成26年度ワークショップの様子

けんりつこうぶくわん  
県立考古博物館

「古代のものづくり」

チャレンジしませんか！



考古博物館では小中学生とその保護者を対象に「ものづくり教室・チ

ヤレンジ博物館」という体験事業を行っています。

チャレンジ博物館は月に一、二回のペースで開催しており、その内容もさまざまです。今年度は石製耳飾り作りや古銭作り、縄文土器作りなどを行っています。子どもの手でも無理なく本格的に仕上がることから毎回好評を得ています。

たとえば夏休み期間中に全三回の日程で開催した「縄文土器づくり」に「ヤレンジ」では、土を練るところから始め、本物の土器を参考にして丹念に形を造り、焼き上げるまでを体験してもらいました。実際に自分の手で一から作り上げることで、より印象的な体験となり、参加した子どもたちに土器への関心を深めてもらうことができました。



縄文土器作りの様子

また、考古博物館で実際に展示している遺物や古墳からの出土品を身近に観察し、実物と対比させながらものづくりができるという点もチャレンジ博物館ならではの特徴といえます。

今年度はあと三回の体験を予定しており、年明け一月二十四日（日）には縄文時代のかごづくり、二月十四日（日）は弥生時代の笛づくり、三月十三日（日）には勾玉づくりが行われます。

親子で楽しく手を動かしながら、古からの技を体験してみませんか。（尚、十六歳以上の方には一歩上を行く「古代の技」という体験もあります。）



石製耳飾り作りの様子

けんりつびじゆつかん  
県立美術館

「花の画家 ルドゥーテのバラ展」



《ロサ・ケンティフォリア》『バラ図譜』より  
コノサズ・コレクション 東京 所蔵

ポタニカル・アートという言葉を知っていますか？

ポタニカルには「植物学の」という意味があり、ポタニカル・アートは「植物細密画、草花を科学的に正確に描く」という意味になり「植物画であると同時に、芸術的である絵画」のことを言います。

ピエール・ジョセフ・ルドゥーテ（一七五九〜一八四〇年）は、フランス王妃マリー・アントワネットとナポレオン皇帝ジョゼフィーヌに仕えたベルギー出身の植物画家です。

彼は、当時の貴族や上流階級の人々に「花のラファエロ（※1）」「バラのレンブラント（※2）」と称えられ、近年ではポタニカル・アートの巨匠として、多くの人々を魅了しています。本展覧会では、ルドゥーテ・ワールの魅力を紹介します。

開催期間 平成二十七年十一月三日（火）から二十八日（日）まで



《ロサ・スルフレア》『バラ図譜』より  
コノサズ・コレクション 東京 所蔵

（※1）ラファエロ

ラファエロ・サンツイオは、ルネサンスを代表するイタリアの画家・建築家。

（※2）レンブラント

レンブラント・ファン・レインは、十七世紀を代表するオランダの画家。

けんりつはくぶくわん  
県立博物館 シンボル展

「天の虫のおきみやげ」



絹（シルク）の原料となる小さな繭。白く美しい繭を作り出すのは、蚕という昆虫です。蚕を育て、繭を収穫する養蚕は、古くから重要な生業のひとつとされてきました。

かつてこの山梨も、全国有数の養蚕県でした。昭和五〇（一九七五）年頃まで、養蚕をしつつ稲作・畑作を行うのが山梨のごく普通の農家のあり方であり、そのような暮らし方が、住生活、

お祭りや年中行事にまで、大きな影響を与えてきました。養蚕は、民俗文化の基盤でもあったのです。



「繭の収穫」  
昭和44年6月 甲府  
(昭 和44年6月 甲府)  
撮影者 内田 宏

しかし、養蚕業は一九六〇年代後半から劇的に衰退し、その変化は民俗にも大きな影響を及ぼしました。結果として失われた養蚕信仰もありましたが、養蚕信仰の名残は今でも多く見ることが出来ます。身近な祭りや行事を深く知ること、山梨の人々がいかに養蚕業を大切に思い、重要視してきたのかを実感することが出来ます。今回の展示では、主に実物資料や写真等を展示し、その中から特に信仰にまつわる事柄に注目してご紹介いたします。蚕とくらしの頃の人々の心に、是非触れてみてください。

開催期間は、十二月十六日(水)から平成二十八年二月二十九日(月)までです。

また、県立博物館は新年一月二日より開館しています。二日と三日には、お正月にふさわしいイベントを開催して、皆様をお待ちしております。



ねずみよ 鼠除けのお猫さんのお札

「山梨近代人物館 第二回展示 世界をみつめた山梨の人々」



山梨県庁別館は、昭和五年に建てられた県有形文化財の建物です。その中に「山梨近代人物館」があります。わたしたちは、外国のさまざまな物や情報にかこまれて生活しています。外国にも自由に行くことが出来ます。船でしか海外へ行くことが出来なかった時代に、山梨から海外に行き、その国で学んだことや見聞きしたものを山梨だけではなく、日本や世界に広めた人がいます。

「世界をみつめた山梨の人々」をテーマに、九人の人物を詳しく紹介しています。また、タッチパネルで人物について学べる「ふるさと人物伝」や、「ひらいて、まわして、やまなしのこの人だくれ?」では、パネルを動かしながらクイズに挑戦出来ます。



現在は、来年三月末までの予定で「大村智博士ノーベル生理学・医学賞受賞記念展示」も開催しています。

「実物大恐竜バルーン トリケラトプス HAPPY NEW DINO YEAR!」



人類が誕生する遙か昔から地球を支配していた恐竜。近年では研究が進み、その大きさや形状などが詳細に判明してきました。二〇一六年、県立科学館にリアルバルーン実物大恐竜(トリケラトプス/全長七・五メートル)がやって来ます! ご家族お揃いで、恐竜の壮大なスケールを体験してください!

また、各日先着二百名様にお年玉として新年来場記念オリジナルDINOバッジをプレゼントします。

期間は、一月四日(月)から八日(金)まで。時間は、午前九時三十分から午後五時(最終日は午後三時三十分)まで。対象は子どもから大人。

費用は入館料のみです。事前の申し込みは必要ありませんので、直接メインエントランスにお越しください。多くの方のご来館をお待ちしています。

詳しくは、県立科学館ホームページをご覧ください。直接お問い合わせください。

電話 〇五五―二五四―八一五一



実物大恐竜バルーン トリケラトプス

「贈りたい本大賞 大切な人に贈りたい一冊」



県立図書館では、今年も「贈りたい本大賞」―大切な人に贈りたい一冊―を募集しました。

昨年を上回る二七三二作品が集まり、その中から大賞作品五点、優秀作品二十五点が選ばれ、十一月十一日に表彰式が行われました。今年も多くの学校から多数の作品を応募していただき、ありがとうございます。

大賞受賞者には、双葉東小学校の山田光香俐さん、甲府西高校の内田成美さん、駿台甲府高校の榎山あかりさんが選ばれました。また、押原中学校、甲府昭和高校など八つの学校に学費が贈られました。来年の「贈りたい本大賞」にもたくさんのご応募をお待ちしています。



贈りたい本大賞 受賞者の皆さん

また、二月十一日に図書館ボランティアややまなしと共催で開催される「春を呼ぶ朗読ライブ」―中学生・高校生とともに―では、中学生、高校生の出場者を募集しています。朗読の発表をしたい方、朗読に興味のある方は、ぜひご応募ください。

お問い合わせ、お申し込みは、朗読ボランティアややまなし(〇五五―二八三―三三四〇)または、山梨県立図書館(〇五五―二五五―一〇四〇)までお願いいたします。

先生方へ  
「博学連携のお知らせ」  
県立美術館、博物館、考古博物館(埋蔵文化財センター)、文学館、科学館、

博学連携の推進のため、県立美術館、博物館、考古博物館(埋蔵文化財センター)、文学館、科学館では、教育プログラムや出前授業、貸出教材など各館の特色を生かした教育普及事業を実施しています。

詳細は各館担当者までお気軽にお問い合わせ下さい。

- 〈問い合わせ先〉
- 県立美術館 学芸課普及担当 電話(〇五五・二二八・三二五八)
- 県立博物館 企画交流課 電話(〇五五・二六二・一二七八)
- 県立考古博物館 学芸課 電話(〇五五・二六六・三八八一)
- 埋蔵文化財センター 電話(〇五五・二六六・三〇一六)
- 県立文学館 学芸課教育普及担当 電話(〇五五・二三五・八〇八〇)
- 県立科学館 電話(〇五五・二五四・八一五一)

山梨近代人物館は、開館時間中は、いつでも無料で観覧出来ます。また、団体予約も受け付けています。

詳しくは、電話でお問い合わせください。電話(〇五五・二三一・〇九八八)

県立美術館、博物館、考古博物館、文学館では、小・中・高・特別支援学校の児童・生徒は、常設展・特別(企画)展を無料で観覧出来ます。